

## JICA横浜国際センターで行われた事業の報告や研修員の活動を報告します！

詳しくはJICA横浜Webサイト → <http://www.jica.go.jp/yokohama/index.html>

**PICK UP!**



### 「バンクーバー新朝日」のみなさんが来館

書籍、マンガ、映画などで取り上げられ話題となり、今般、再結成された日系少年野球チーム「バンクーバー新朝日軍」が、3月に海外移住資料館を見学しました。現在、開催中（5月10日まで）の特別展示「連れもて行こら 紀州から！ー世界にひろがる和歌山移民ー」では、カナダへの移住を紹介するコーナーで、1926年の「朝日軍」選手の写真や、拠点として活動していたオープンハイマー公園（パウエルグランド）の写真などが展示されています。「バンクーバー新朝日軍」は、横浜市のバンクーバー姉妹都市連携50周年記念事業として、約一週間、横浜に滞在し、横浜のリトルシニアチームとの親善試合や、横浜市林市長、在京カナダ大使館への表敬訪問などが行われました。

### カムリシロムクの里、西部バリ国立公園を訪問

インドネシア共和国バリ島唯一の国立公園である「西部バリ国立公園」と横浜市繁殖センターとJICAが、絶滅危惧種である「カムリシロムク保護事業」を開始して早12年。協力の甲斐もあり、繁殖施設では44羽の雛が順調に育ち、昨年からは、自然環境に徐々に馴化させてから放鳥する「ソフトリリース」での放鳥が始まっています。昨年放鳥された14羽のうち、野生下で3組のペアが繁殖し、元気な雛を育てている様子が観察できました。加えて、放鳥された鳥と、野生下で生まれた鳥がペアとなり、新しい命を育てている事も確認できました。西部バリ国立公園の空に、カムリシロムクの群れが見られるのも遠い事ではなさそうです。



リリース」での放鳥が始まっています。昨年放鳥された14羽のうち、野生下で3組のペアが繁殖し、元気な雛を育てている様子が観察できました。加えて、放鳥された鳥と、野生下で生まれた鳥がペアとなり、新しい命を育てている事も確認できました。西部バリ国立公園の空に、カムリシロムクの群れが見られるのも遠い事ではなさそうです。



### 西バリ国立公園にいらっしやい！

西バリ国立公園に囲まれたスンプルクランポック村では、国立公園職員と一般財団法人あいあいネット（川崎市）が住民と協働し、国立公園の生物多様性保全と周辺コミュニティの生計向上を両立させた村落観光振興が進められています。活動の一つ、英語観光ガイドセミナーには10代から30代までの若者が学び、多くの若者が失業状態にある村の雇用創出に取り組んでいます。森林の違法伐採で生計を立てていた参加者の青年は、「違法伐採をするより観光振興の方が将来的には収入源となり、自身と村の双方にメリットがあることに気付いた」と語り、自分達で作った村の絵地図を使って活き活きと村の見どころ案内をしてくれました。



### 横浜市がベトナム・ハノイ市の 下水道事業をお手伝い

JICA横浜では、ベトナムの首都ハノイ市の下水道事業改善に、横浜市の経験を活用しています。ハノイ市では下水処理場の運転が開始されてから10年ほどしか経っておらず、事業運営のための知識や経験が求められています。3月には横浜市職員と日本の民間企業から13名がハノイ市を訪問、下水処理場の運転指導やマニュアルづくりに協力し、また日本の技術紹介セミナーを開催しました。今後も下水道施設の拡大が必要とされているハノイ市において、このような支援はハノイ市の衛生改善にも大きく貢献しています。



### インドでガンバル、横浜の中小企業！

インドのバンガロール市では、1日あたり50万トン（1日の一人あたりの使用水量を200リットルとすると、250万人分の水量）が不足しており、より多くの水の確保が課題となっています。一方、水道管の破損、接続不良などにより起こる漏水により、大切な水が失われています。そこで、横浜市旭区にある水道テクニカルサービス(株)は、同社が共同開発した自動漏水感知装置と、長年の経験から得た漏水探知技術を活用し、同市における漏水の探知に貢献するため、2015年3月、第一回現地調査を行いました。この事業は、JICAの中小企業支援「普及・実証事業」として2015年3月から2017年2月まで行われます。



# 日系人中学生来日インタビュー!

1月から1ヶ月間、アルゼンチン、パラグアイ、ペルー、ブラジル、ボリビアの日系人中学生37人が、JICA横浜で日系社会次世代育成研修に参加しました。今回ご協力をいただいた、ブラジル、ボリビアからの小森さんと知花さん。二人とも日本語が堪能で、共に母国では午前は現地の学校、午後は日本語学校で勉強に励んでいます。

## ブラジルから来日の小森さん



日本は僕が思っていたイメージと全然違い、驚いたことは道が舗装されて綺麗で歩きやすくゴミも落ちていないことや、お店がたくさんあり、必要なものがすぐ手に入ることでした。日本の中学校に体験入学させていただいた中で印象的だったのが、校内で上履きに履き替えるということでした。ブラジルでは履き替える習慣がないため校内は汚れが多いです。掃除も丁寧に行われていることがよく分かりました。みんな校則を守っていて授業も真剣に聞いている。当たり前の事だと思うのですが、ブラジルの学校では校則を守らない人が多く、校内で飲食をしている人もいます。僕は将来は日本の大学へ行き、日本の地方文化や地方の言葉を学びたいです。長期滞在をして日本の四季を体験してみたいです。

## ボリビアから来日の知花さん



私が日本で驚いたことは、いつも時間にきっちりしていることです。私の地元でも時刻表があるのですが、30分程度の遅延は当たり前で、みんな慣れてしまっています。いつも日本人のマナーの良さには感心しています。歩いている時も、みんな片側にまとまって歩いたり、順番を守っていたり。ボリビアではマナーを守らない人が多いのが現状です。マナーの大切さや謙虚な姿勢を身につけること、身近なところから意識して取り組んでいきたいと思えます。私の目標は、日本の大学で勉強して日本で女優になることです。「ボリアビアに日系人がいる」ということを日本の人たちに発信しつつ、ボリビアのいいところをもっと日本の人たちに知ってもらいたいです。

## モルディブの水産加工品の品質向上を目指して



JICA横浜での水産分野研修コース「漁業コミュニティ開発計画」に参加した研修員への帰国後の技術支援として、研修委託であるアイ・シー・ネット株式会社から講師2名をモルディブに派遣しました。モルディブは南アジアに位置し、インド洋に浮かぶ約1,200の島々から成る島嶼国。水産業は観光業に次ぐ主要産業です。年間一人当たりの魚消費量は144kgと世界一。そんなモルディブで帰国研修員たちが取り組んでいるプロジェクトが、かつお節のようなカツオの加工品（モルディブフィッシュ）の品質向上です。対象地であるゲマナフシ島で、研修員たちは日本で学んだ調査手法を使って、漁業者や加工業者、船主などの関係者に対する現地調査やワークショップを実施し、当初のプロジェクト計画をより現状に沿った計画に見直すことができました。



## ベトナム・フエ省に対する「安全な水」供給プロジェクト実施

横浜市水道局とJICAは横浜水ビジネス協議会会員企業と連携し、「横浜の民間技術によるベトナム国「安全な水」供給プロジェクト」を実施しています。ベトナムのフエ省水道公社を対象に2016年11月まで行われます。ベトナム中南部の水道事業体が必要とする民間技術の有効性を実証し、日越公民の水ビジネスネットワークが構築されることを目的としており、6月に

は現地で参画企業の技術を紹介するセミナーを実施する予定です。



## 教師海外研修プログラムが終了しました



2014年8月にタンザニアへ派遣された10名の先生方の修了式が2月に行われました。修了証書を手にした先生方からは、「今回の研修で得たこと、つながりを活かし、学校現場などで国際理解教育・開発教育をすすめていきたい」といった感想が聞かれました。



## 「よこはま国際フォーラム2015」開催

「よこはま国際フォーラム」は、セミナー・ワークショップの開催を通じ、国際協力・国際交流・在住外国人支援などに関わる団体の活動を広く紹介し、横浜から国際協力・国際交流の情報発信を行うイベントです。今年は、2月7日（土）、8日（日）の2日間にわたりJICA横浜で開催され、全54講座、1,700人近くの方にご参加いただきました。

